令和6年度 稲沢市地域自立支援協議会 第2回本会議 議事要旨

【日 時】令和7年3月18日(火) 午後2時～午後3時35分

【場 所】稲沢市役所 本庁舎 2階 政策審議室

【出席者】本会議委員 9人 事務局 10人 手話通訳 2人

【欠席者】なし

あいさつ(会長)

【議 事】

1 議題

(1)運営会議等の実施状況について(事務局から説明)

委員 A 今年度は、5回の運営会議で、日中サービス支援型のグループホーム運営評価を3回行ったため、運営会議自体の時間が短くなった。グループホームの運営評価自体は、現場で直接話ができ、とても良いやり方だと思うが、運営会議が少し時間の制約を受けたのではないか。

個別支援会議については、年々開催件数が減っており、稲沢市の地域課題があがってくる根拠となるものが少ない。どうしてもこれが開催できないということになれば、協議会の部会や連絡会から根拠となるものがきちんと出て、自立支援協議会のなかで解決していく、という流れを作らないと、何を課題として何をするのが薄くなってしまいうし、運営会議での舵取りがやりづらいので、このあたりの強化が課題ではないか。

事務局 運営評価について、日中支援型指定共同生活援助事業所は、今後も増えていく見込みのため、会議のありかた、やりかたを含め御意見等いただきながら、充実した運営会議となるよう検討したい。

(2)分野別部会の実施状況について

・地域生活支援部会(部会長から説明)

委員 A 「あらかると」をこのような形で更新した成果は、ここにいる部会員のみなさんも成功体験として良かったと思うが、地域生活支援拠点について、手をゆるめていないか。団塊の世代が後期高齢者になり加速していく。地域のなかで課題となる5つの機能を担うとなったときに、面的整備というやり方上、少し弱いため、しっかり進めていかなければいけない。今は部会でやらざるを得ないので、部会長を中心に、ここは力を抜いてはいけない。特に問題となっているのが、体験の場をすすめられる人がいないことと、強度行動障害や医療的ケアなど、障害の重い人たちの体験の場がないこと。これを、オールいなぎわの体制でつくらないと、間に合わない。これは災害の問題につながる。各地で避難所から障害のある人が消えているが、稲沢市でも、この状態は起こる。情報共有するだけでなく、問

題を解決することを次年度以降しっかり取り組んでほしい。

会 長 次年度のメンバーは変わるかもしれないが、今、御指摘いただいたことを踏まえて、活動を前に進めていけたらいいと思う。先ほどの部会長からの説明の中に、点から線、線から面へということがあったが、そこに至るまではやはり、人と人とのつながりが大きいのではないか。部会が分かれてはいるが、部会どうしが繋がっていく場が運営会議や本会議であるため、その場を利用し、オールいなざわで、大きな課題に取り組んでいけると良い。

・就労支援部会（部会長から説明）

委員 A グループ交流会の温度差について話があったが、ファシリテーション技術を持つ相談支援専門員をグループに配置すると、話が盛り上がり、違った意見が出ると思う。就労支援部会では、障害のある人がもっと、企業で働けるような地域となるよう、皆で話し合っていたきたい。

委員 C 障害者の就労について、障害者施設でもっと雇えるのではないか。私の施設でも障害者雇用をしている。職員も障害者について詳しいので理解はしやすいと思う。

委員 D 施設のかた向けに会社見学会をおこなったことがある。事業所から紹介され、わたしどもの会社で働いていらっしゃるかたもいる。福祉施設で就労している人と、一般企業で就労している人のつながりというものが難しいことと、一般就労に向けて、事業所側がどれくらいの作業訓練を行っているかの現状を、一般企業が知らないこともあるので、交流も必要だと思う。いろいろな取り組みかたはあると思うが、少しずつ新しいことを取り入れていくことは必要だろう。

・権利擁護推進部会（部会長から説明）

委員 A 事務局に対して質問したい。権利擁護に関することは障害者の相談支援事業所のほうに委託される内容に入っていないか、ということが1つ。もう1つは、一時保護の虐待ケースがないということだが、稲沢市で分離が必要となった場合の一時保護の考えかたはどうかを聞きたい。

事務局 障害者相談支援事業の委託契約の仕様書には、権利のために必要な援助と書いてある。委託先の事業所は、この仕様書に基づいて、必要な援助をしていると市は認識している。もう1点の虐待時の一時保護については、愛厚はなのきの里と、協定を結んでいるが、必ずしもすべてのケースを「はなのきの里」へというわけではなく、緊急のショートなどで対応する場合もあり、ケースバイケースである。

委員 A 権利擁護に関しては、相談支援はどこまでも虐待対応協力者になるはずなので、そういう位置づけをすれば、1人で対応するというのではなく、対応協力者として対応できるし、未然に予防する役割があると位置づけすれば、できることがあると思う。一時保護の考えかたについては、緊急で入ってくる人の混乱度は高いので、協力事業所を増やしておく。それがないので保護できないということは行政のネグレクトである。虐待対応のことについては、部会のなかで内容を調査

していく難しさはあると思うが、これをやっておくのとやらないのとでは、このあとに続くことがあるので、そこは力をいれてお願いしたい。権利擁護というと、虐待されない、差別されないというネガティブなことが先に立つが、本当にその人が人として人権が守られるポジティブな権利擁護の内容を議論してほしい。

事務局 虐待の対応については、基幹相談支援センターがケース会議等への参加や状況確認のための訪問の同行をしているため、市役所福祉課の職員がひとりで対応するということはあまりないと考えられる。

委員 D 法務局では人権擁護事務を取り扱っており、啓発活動を実施するほか、人権侵犯事件があった場合は調査、対応をし、事件に関する相談を行っていく。また、いじめといったこどもに関することは、学校が対応するため、対応が適切であったかを調査し、適切な措置を行う。事業所のなかで差別などの申告があった場合、被害者から申告を受けて必要な対応をしたかの調査をし、されていない場合はそれなりの措置をすることになる。まずは事業所のなかでそういったことが行われないようにしていただくことと、実際に施設を利用しているかたが虐待や差別があったとの申告があれば、その施設の対応がどうだったかということ进行调查して、必要な措置をするよう取り組んでいる。今後、何か協力できることがあれば、情報共有していきたい。

会 長 人権擁護は難しい問題であるが、差別解消も含めて知らないということが、差別につながると言われているので、みなさんと情報交換しながら理解を深めていけたらと思う。

・こども部会（部会長から説明）

会 長 どの子どももみな、同じような幸せを受けられたらいいというところから始まっていると思う。幸せの感じかたはそれぞれだが、人として最低これくらいのことのできたらいいなということがベースにあると良い。

(3)事業所連絡会の実施状況について（事務局から説明）

委員 A 協議会が形骸化するという相談を受けることがある。稲沢市の協議会は比較的活発に動いているというなかで、どうしたら形骸化しないかを助言するとしたら、個別の課題から立ち上がっていることではないか。それぞれの部会や連絡会で問題を解決していくというよりは、課題を認識して取り組んでいくという考えかたをしたほうが、関係者が行動する動力になると思っている。個別支援会議から課題が抽出されないとしたら、課題はどこからくるのか、何が課題なのかを具体的にしないと、何のための、だれのためのということが分からなくなり、形骸化していくのではないか。連絡会で多く出てくる課題は、どこからくる課題か分からず漠然と問題としている場合が結構ある。なので、形骸化させず活発に動いていくために、ひとり一人の課題のニーズを大事にして、それを関係者全員で考えら

れる連絡会にしてほしい。

会 長 協議会が形骸化することへの危惧についての意見だったが、このことは協議会全体で考えていくことだと思うので、今日の御意見を頭にとめておいてほしい。

委員 E 上手くいったことも、なかなかうまく進まないこともあり、協議していくことも重要だが、いったいそこにはどういう原因があるのか、なにが課題なのか、ということからスタートとしないことには先には進まないと思う。どういう原因があって、どういう人材が必要で、ということから形にしていくことをしていかないと、形としてはあっても先に進んでいかないということになる。そういうところに踏み込んでいけるような話し合いになっていけると良い。

委員 F 知識が十分ではないため、みなさんの話し合いがとても勉強になった。

2 その他

なし